

あの頃、みんな T-BOLAN を聴いていた

— T-BOLAN THE MOVIE —

2014.2.22

T-BOLAN (森友嵐士/青木和義/五味孝氏/上野博文)

監督/脚本: 内田和久二 企画/製作: ビーイング 配給: ローソンHMVエンタテインメント 制作: オブザアイ

日本/約97分/カラー/16:9/5.1ch

www.beinggiza.com/zain/t-bolan/



『T-BOLAN それぞれの想い。 メンバーの本音に迫る97分にわたる ドキュメント映像。』

1991年... 80年代後半の音楽ビジネスの不況が終わり、J-ROCK&POP全盛時代の幕開けを迎えたこの年、T-BOLANはデビューした。それは、レコード会社・ビーイングのオーディション合格から4年、ライブハウスや歩行者天国などインディーズ・シーンでの活動を経てのことだった。

そして、2ndシングル「離したくない」がヒットチャート初登場から52週にわたりTOP100にランクインするというロング・ヒットを記録し、一躍ビッグ・アーティストに成長した。

しかし、1995年、ボーカル・森友嵐士の声が出なくなるという事態にみまわれる。同年3月の大阪厚生年金会館大ホールでの公演を最後にライブ活動を中止。ファンの前に姿を見せることなく、1999年に解散した。

1990年代前半、B.B.クイーンズの『おどるポンポコリン』の大ヒットを皮切りに8cmCDシングルという新しいソフト・メディアが音楽マーケットに確立され、シングル作品としての評価がセールスに結びつくという時代へと変化した。J-ROCK&POPシーンは、数多くのミリオン・ヒットが生み出されるかつてない黄金期を迎えていたのである。

そんな中、T-BOLANは制作にこだわり、時代が求めるメッセージを作品に込め伝え続け、何作ものヒット曲を残した。だからこそ、全盛期から20年を経た今でも多くのファンに唄われ続けている。一方で、楽曲作りやレコーディングに時間を費やした彼らはテレビなどのメディアに

登場することが少なく、彼らにとって唯一ライブがファンに自分たちの想いを直接伝えられる場であった。だからこそ、活動を休止したまま、決断せざるを得なかった1999年の解散は、メンバーそれぞれの中には未だ悔いを残す出来事として残っている。

『ステージに置き去りにするしかなかった想い』...森友嵐士はこう表現している。

2011年、秋、『いつかまた』、そんな気持ちでそれぞれの心にもしも存在するならばと、それぞれの思いを再確認するため、森友はメンバーにアクセス。山中湖にて、メンバー4人が再会し、それぞれの心の奥にしまい込んでいた本当の気持ちを確認しあうことになる。そこで辿り着いた答えは、再結成。『置き去りにするしかなかった想い』を手にするため、そしてファンに伝えるために、もう一度ステージに立つことを確認し合ったのである。そして、その場として選んだのが、2014年3月の大阪・オリックス劇場(旧大阪厚生年金会館)と渋谷公会堂。

いくつもの栄光と挫折の中、苦しみ悩みながらもT-BOLANというバンドを一番に思ってきたメンバーそれぞれの想い、そしてT-BOLANというアーティストとともに時代を歩んできたファンの声、さらには当時の貴重なライブ映像を交えながら、T-BOLANというアーティストが90年代に残してきたもの、そしてそれらを経てもう一度ステージに立とうとするまでを描いたドキュメンタリー映像である。

T-BOLAN (森友嵐士/青木和義/五味孝氏/上野博文)

監督/脚本:内田和久二 企画/製作:ビーイング 配給:ローソンHMVエンタテイメント 制作:オブザアイ
日本・約97分/カラー/16:9/5.1ch

2/22(土)より、新宿ピカデリー&なんばパークスシネマ1週間、その他劇場1日限定公開!
鑑賞券絶賛発売中! 詳細はローチケ.com(l-tike.com/)まで

「T-BOLAN THE MOVIE ~ あの時、みんなT-BOLANを聴いていた ~」DVD付き鑑賞券も発売中 ※予定数量に達し次第終了

